

2019年2月1日

課題名：胸部 HRCT で possible UIP pattern を示す  
特発性肺線維症以外の特発性間質性肺炎における気管支肺胞洗浄の意義

◆研究の目的と概要◆

特発性間質性肺炎は肺の慢性的な炎症や線維化により、咳、呼吸困難を生じる病気です。特に線維化により肺が固くなり肺活量が低下することが呼吸困難の主因となり、これは進行性や治療による効果判定の指標となるものです。

特発性間質性肺炎の中には、ゆっくり発症するタイプである慢性型特発性間質性肺炎があります。特発性肺線維症以外の慢性型特発性間質性肺炎に対しては、副腎皮質ステロイドが有効とされていますが、その効果を予測するのに気管支鏡検査が有用な可能性があります。

本研究は、特発性肺線維症以外の特発性間質性肺炎について気管支肺胞洗浄でのリンパ球数を調べることによってステロイドの有効性予測ができるかどうかを解析し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2009年4月～2014年3月に慢性型特発性間質性肺炎と診断され、外科的肺生検を実施された方

◆研究に使用される情報・試料◆

本研究は先行研究によって構築されたクラウド型統合データベースを用いた二次解析であるため、本研究用に新規に試料採取や診療情報取得は行わない。

◆研究方法◆

上記情報を、患者さんの氏名などがわからないようにしたうえで、下記機関に対して電子的配信で提供します。

◆主な共同研究機関及び研究責任者◆

浜松医科大学 第二内科 須田隆文医師が主体となって実施しており、全国 59 施設が参加しています。

主体のホームページ <https://www.hama-med.ac.jp/>

- \* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
- \* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

呼吸器内科 研究責任者 有田 眞知子

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法  
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明